

【寺田員人先生 ご寄稿】

日本歯科大学 新潟病院 矯正歯科 元教授で、当法人理事の寺田員人先生よりご寄稿いただきました。

『矯正歯科医療から感じたこと』

新型コロナ（COVID-19）感染症が5類（感染症法における感染症の分類）になって1年になる。行動制限が緩和され、人々の口元からマスクが消えつつある。マスク着用によって、口元を気にせずに生活できたことで、一時的に矯正歯科治療を希望する人が増えたという話をマスメディア等から報じられた。このことが真実であるかは、確かな情報を持ち合わせていない。口元を隠せるから治療に適していると考えすることは理解できる。しかし、成人での治療期間（歯にブラケットという器具を装置した治療で2年半から3年）とCOVID-19感染症の蔓延状況を考えると理解できないところがあった。器具が付いた歯を見られるのを避けることは、年齢や時代に関係なく患者さんの心理としてあるようである。近年では、むしろ装置をつけていることを楽しむ、楽しんでいるのではないかと思われる現象がある。それは、歯を動かすための針金と器具と結ぶ材料をあえて鮮やかな濃い色のものを選ぶ患者さんがいることである。テレビでも時折、前歯には不似合いな赤や青の鮮やかな器具を見かける。過去には、ハローキティちゃんのついたブラケットも売り出されたが、流行らなかったと聞いた。このように、矯正歯科治療が広く周知されてきたことであると思う。



寺田員人（てらだかずひと）
日本歯科大学 新潟病院 矯正歯科
元教授
（公社）顔と心と体研究会 理事

古い話で申し訳ない。私が矯正歯科治療を勉強し始めた1980年代はじめ、矯正歯科治療はすべての患者さんで保険診療ではなく自由診療であった。そして、学術論文や症例報告では、矯正歯科治療を行う目的は、機能的な改善であって、審美的な目的で行うことを公然と認められなかった。

現在では、矯正歯科治療として、「口元の突出観を気にする」、「上の歯の突出を気にする」、など審美的な訴えに対する治療も医療として認められるようになった。ここまできたのには、多くの人の努力の結果があつてのことといえるだろう。一方、これらの不正咬合による障害の一つとして、審美性の問題から生じる社会適応性の障害が記載されている。審美性に関しては、社会、文化、集団、時代等によって変化することを、読者の皆様も理解できると思う。そのため、審美性の問題を単純に形態的な要素だけで評価することは難しいと考える。一方、社会適応性障害とは漠然とした
(→次ページにつづく)

* Contents *

表紙～P. 2 寺田員人先生ご寄稿

P. 2 書籍のご案内

P. 3 メイクアドバイス会報告

P. 4 第15回顔と心と体セミナー 告知

P. 5 社員総会のご案内

P. 6～20 第14回顔と心と体セミナー講演録

(→表紙からのつづき)

表現といえるだろう。人が行う社会生活は、生きていくうえで重要な人の活動である。そう考えるとその活動への障害は機能障害といえるだろう。

さて、審美的問題と社会適応性障害との因果関係だけでなく、関連性についても客観的に探究されていないだろう。しかし、学生向け歯科矯正学の教科書では、「患者自身の審美性に対する問題意識から醜形恐怖（身体醜形障害）といった心理障害にいたる場合もあり、患者の心の問題は矯正歯科治療において考慮しなければならない重要な課題である。」と記載されている。自身の歯科矯正治療でも統合失調症を有する顎の形態異常を有する患者さんの治療を行った経験がある。この症例では、審美的な問題と精神的な疾患との因果関係は不明であった。さらに関連性の有無も不明であった。歯の移動のための装置を外した後に受診しなくなり精神的な問題が解決したかは不明であった。この経験の他にも社会適応性が疑われた複数の症例の治療を行った。これらの経験から両者の関係を調べる重要性を感じている。現在まだ事例報告が大半であるように思う。始めから完璧な調査ではなく、審美的な問題を抱えている人の調査と社会適応性障害の人の調査から始めてはいかがだろうか。調査というより、事例の集積でもよいと思う。例数を集めることで見えてくるものがあると思う。



書籍のご案内

『世界一不幸な男が、世界一幸せな男になるまでの物語』 つながろう、ワンファミリー！ みんながひとつになる世界へ

当法人顧問で、オープンハートの会 会長・歌う講演家である古市佳央さんが、5月18日に『世界一不幸な男が、世界一幸せな男になるまでの物語』を刊行しましたので、ご紹介します。

古市さんは、高校一年の春、バイク事故により重度熱傷41%という大やけどを負いますが、奇跡的に一命をとりとめます。しかし、顔や手に大きな損傷を残し、その後、数十回に及び皮膚移植手術や手や顔の再建手術を重ねました。

3年間に渡る治療やリハビリを通じて、さまざまな人とふれあい、再び生きる希望を取り戻します。かづきれいこもこの時出会ったうちの一人です。これらの経験を基に、この度、この本を上梓されました。

ご興味のある方は是非お手に取ってみてください。



出版社：株式会社ヴォイス
発売日：2024年5月18日
単行本：228ページ
版型：四六判

価格：1,760円（税込）

内容：タイムマシーンがあっても、決して過去には戻らない！
なぜなら、つらい時期を乗り越えた今の自分が幸せだから。
今の自分を愛せるから。

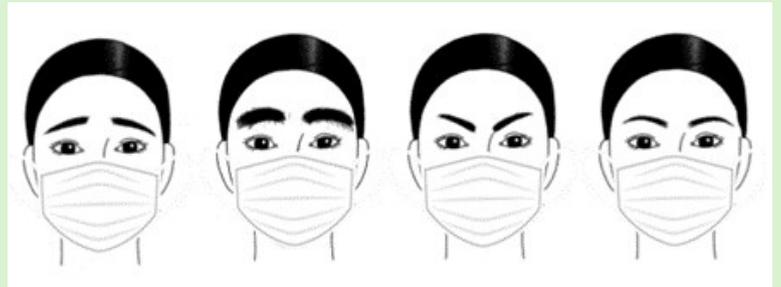
全身やけどを負い、火だるまになった男が、逆境から立ち上がり、世界一の幸せ者になるまでの軌跡を描いた書籍です（まえがきより一部抜粋）。

名古屋の障害者就労移行支援事業所での メイクアドバイス会

4月20日、会員4名と事務局は、名古屋市中区の障害者就労移行支援事業所「チームK/ステラビィ 就職塾」において、施設利用者の就職活動を支援するためのメイクアドバイス会を行いました。当該塾は、障害者のための就労移行支援事業所で、就労を希望する障害者に対して、個々人の適性に合った実習・訓練を行い、職業能力の向上や実践的な知識・技能の習得を支援する施設です。

今回のメイクアドバイス会では、就活向けメイクとはどういうものかを知ってもらうこと、メイクによるご自身の外観変化を実感し、メイクの楽しみを見出していただくことを、主な目的としました。

当日は、まず、ある人の眉を見た場合に、自分がその人についてどんな印象を受けるかを、プリントを利用しながら、それぞれに考えてもらいます。自分が受けた印象をお互いに確認する中で、「身だしなみ」というものが、他人が受ける印象をもとに自分を整えるべきものであることを学んでもらいます。



次に、実技として、それぞれが自分の顔で、血流に沿ったマッサージを半顔ずつ行います。それだけで目の開き方、顔色や顔の輪郭などが、大きく変化することに驚きの声が上がります。

続いて、眉の描き方の練習をします。同時に、講師が参加者一人一人のメイクの手直しを行い、それぞれの顔の特徴に合ったメイクの仕方をアドバイスしていきます。いつもと違う印象になった自分の表情、友達の顔を見て、歓声が上がります。メイクの終わった方について、美容師資格を有する講師が、各人の希望を聞き取りながら、

ヘアメイクを行っていきます。すっかり整ったところで、就活用の写真撮影をして終了です。

座学と実習の2時間強の講習でした。

コロナ禍以降、数年ぶりのメイク講習会でしたが、参加者の皆様（13名）には大変喜んでいただき、講師をはじめとする会員も大変な感動をいただいた機会でした。

ご協力いただいた「チームK/ステラビィ 就職塾」とご参加くださった方々に御礼申し上げます。

福祉関係施設からのメイクレッスンの依頼は、これまで少なからずありましたが、施設と当法人の予算的な制約から、なかなか実現できず、施設側の障害者支援、当法人の外観に悩みを抱える方々の社会復帰・社会参加支援のいずれの目的も達成することができず、やや焦燥を感じていました。今期は、当法人において特別の予算を計上し、当法人の負担でメイク講習を実施していきます。ご希望のある関係先は、是非ご一報いただければ幸いです。



第15回「顔と心と体セミナー」参加者募集

2024年6月22日(土) 13:30~14:40

<理事長 かづきれいこよりメッセージ>



今回は、**最近のがん事情と婦人科がん**についてセミナーを開催します。

医学博士、公益財団法人がん研有明病院健診センター勤務の宇津木久仁子先生をお迎えし、「**最近の女性のがん事情**」と題してお話しいたできます。



宇津木久仁子先生

セミナー終了後には、**社員総会と懇親会**(ともに会員限り)を行い、顔と心と体研究会の諸活動をご報告し、また会員間の親睦を深めたいと考えております。

ぜひ会場までお越しください。

日時 : 2024年6月22日(土) 13:30~14:40 (13:00より受付)

会場 : コモレ四谷タワーコンファレンス STUDIO & LOUNGE

(新宿区四谷1-6-1 コモレ四谷 四谷タワー3階)

JR四ツ谷駅・東京メトロ南北線四ツ谷駅 徒歩1分、東京メトロ丸ノ内線 徒歩3分

<https://comore-yotsuya.jp/access/>

定員 : 会場 50名 / オンライン 40名

参加費 : 一般:2,500円 / 当法人正会員:2,000円 / 学生:無料

スケジュール : 13:00~13:30 開場・受付

13:30~14:40 宇津木久仁子先生 「最近の女性のがん事情」

会員限定 14:40~15:30 令和6年度 公益社団法人 顔と心と体研究会 通常社員総会

会員限定 15:30~17:00 公益社団法人 顔と心と体研究会・有限会社 かづきれいこ 懇親会

申込締切 : 6月14日(金)

申込 : 公益社団法人 顔と心と体研究会 ホームページよりお申込み下さい。

https://www.kaokorokarada.org/seminar_15/

講師プロフィール (敬称略)

宇津木 久仁子 (うつぎ くにこ)

医学博士 公益財団法人 がん研有明病院 健診センター 勤務

<略歴>

1983年 山形大学医学部卒業、山形大学医学部産婦人科

1989-1991年 米国ベイラー医科大学研究員

1991年 山形大学医学部附属病院産婦人科助手

1994年 がん研病院婦人科

2011年 婦人科副部長、リンパケア室長

2019年 健診センター検診部部长

2024年 非常勤医師

当日、熱または咳の症状がある方や体調のすぐれない方は、会場での参加をお控えいただきますようお願いいたします。

<お問い合わせ・申込先> 公益社団法人顔と心と体研究会 事務局

Tel: 03-3350-1035 (月~金 9:30~18:00 土日祝休み) Fax: 03-3350-0176

E-mail: info@kaokorokarada.org ホームページ: <https://www.kaokorokarada.org>



社員総会のご案内

いつも、当法人の事業へのご理解・ご協力を賜りありがとうございます。今年度は、第15回顔と心と体セミナー開催後に社員総会を開催します。また、社員総会後には、懇親会も予定しておりますので、皆様の会場でのご参加をお待ちしております。

●日時 2024年6月22日(土) 14:40~15:30(セミナー終了後)

●会場：コモレ四谷タワーコンファレンス STUDIO & LOUNGE
(新宿区四谷 1-6-1 コモレ四谷 四谷タワー3階)

※ 15:30(総会終了後)より懇親会開催予定

<社員総会>(14:40~15:30)

● 報告事項

令和5年度(令和5(2023)年4月1日から令和6(2024)年3月31日まで)事業報告の内容報告の件

● 決議事項

第1号議案 令和5年度(令和5(2023)年4月1日から令和6(2024)年3月31日まで)の計算書類及び財産目録承認の件

第2号議案 理事9名及び監事2名選任の件

<懇親会>(15:30~17:00)

● かづきれいこ ご挨拶

● 立食パーティー形式の懇親会(かづきれいこや会員同士でご自由にご歓談ください。)

正会員の皆様へお願い

社員総会の議決権をお持ちの正会員の皆様(2024年5月23日の決算理事会開催時に正会員の方)に社員総会への出欠確認用の返信ハガキを本会報誌と共にお送りしています。恐れ入りますが**出席・欠席にかかわらず6月14日(金)必着にてご返信ください。**

ご欠席の場合には、返信ハガキが委任状となり議決権数にカウントされますので、必ずご返送ください。なお、昨今の郵便事情により、普通郵便は到着まで3日程かかりますので、早めのご投函をお願いします。

「第14回顔と心と体セミナー」講演内容

2024年3月30日（土）に開催しました「第14回顔と心と体セミナー」では、数多くの舞台や撮影現場で、有名人のヘアメイクを担当されている結城小百合先生をお迎えして、『人生が楽しくなるヘアメイク』と題してご講演いただきました。また、会場参加者2名と女優・タレントのさとう珠緒さんをモデルにヘアメイクを実演した後、かづきれいこを加えた3人でディスカッションを行いました。

セミナーの内容の要約を、以下のとおり、会員の皆様と共有いたします。（第15回セミナーは、6月22日（土）に開催します。詳しくは本誌4ページをご覧ください。）

●結城小百合先生ご講演『人生が楽しくなるヘアメイク』（抄録）

本日は皆様の前でお話できることを楽しみにしてまいりました。皆様とともに楽しい時間を過ごすことができればと思っております。

早速資料を使いながらご説明してまいります。

皆様は毎日のヘアケアをどのようにやっていらっしゃいますか？シャンプーをするとき、時間がなくて、ガシガシと泡を立てて、ジャーッと流してしまっているということはありますよね。でもそれだと、頭皮の血行が悪くなって、頭皮が固くなってしまいますので、白髪、抜け毛、うねりなどのお悩みが出てしまいます。頭皮に厚みがあって柔らかい状態であれば、健康な髪が育ちやすくなります。そういう血行を意識した頭皮ケアを試していただきたいと思います。

シャンプーをするときは、シャンプーブラシを使うのがお勧めです。手でやるときには、手首の腱を使って、グルグルと揉みほぐして泡立てながら、下から上に持ち上げるようにするのが良いです。そうすると、マッサージしながら汚れを落とすことができます。また無駄な力が入らないので、髪にダメージを与えることも少ないです。



仕上げには、必ず冷水を浴びてキューティクルを引き締めると、乾いたときのうねりなどが軽減されます。簡単ですので、是非やっていただきたいと思います。

またブラシを使う場合には、プラスチック製のものでなく、動物の毛でできたブラシを使うのがお勧めです。動物の毛には、梳かしたときに自分の髪のお油がつかますので、梳かすことによって髪が保湿されます。動物の毛の中でも豚毛が一番のお勧めです。柔らかいので、梳かすときに気持ちがいいですし、アンチエイジングにも有効です。いいブラシは一生ものですので、是非良いものをお求めになって、ブラッシングすることをお勧めします。

【事前質問に答えて】

今日は、皆様から事前にいろいろとご質問をいただいておりますので、ここからは、それに答えながら進めてまいります。

（1）「顔のツヤの出し方を知りたい」

顔のツヤを出すには、カバー力のあるファンデーションのパールとセラム系の美容液を混ぜていただいて、それを、ファンデーションを塗った後、目の下とあご先に付けます。そうすると、ツヤっとして自然な感じに見えます。パールだけだと、どうしても毛穴に入り込んでしまって、キラキラして余計毛

穴が目立ってしまいますので、練り状のものと乳液や美容液を混ぜて使うのが良いです。すると、赤ちゃんみたいなツルっとした肌になり、今風の、韓国アイドルっぽい感じになります。上から粉をはたくと、お直しするときによれてしまって、きれいに直せないのが、粉をはたかない方が良いです。このやり方はいま人気があって、結構オーダーが多いです。

(2)「芸能人の方は美しさを保つことも仕事だと思いますが、どのようなことをしているのでしょうか？」

芸能人は、朝起きてから寝るまで、本当にあらゆる努力をしていますが。



朝はまず、白湯を飲まれます。レモンを入れるとデトックス効果があるというので、レモン入りの白湯を350ccくらい、ゆっくり飲むそうです。その後、午前中は固形物を食べないで、スムージーだけというような方が多いです。

また、冷えないように冷たいものは飲みません。むくまないように、常に手や足、ふくらはぎなどにサポーターをしています。

食べ物は、できるだけ体に良いオーガニックのものだけとしている方もいます。自分で食べるものは作って持ってくる方が多いです。野菜

の茹でたのやグリルしたものなどが多いようです。ロケ弁（※映画やテレビ番組などの撮影・収録現場で、出演者やスタッフに提供される弁当）などを召しあがる方はあまりいません。酸化物が多いので、一度そうしたものを摂取すると、元へ戻すのが大変というので、そういうものは食べないようです。

夜、お風呂に入って保湿します。エアブラシという機械に化粧水などを入れて、細かな霧を発生させて保湿します。エアブラシを使うと結構肌にハリが出ます。スプレー式のものもありますので、ちょっと肌が乾燥したときに使うと効果があります。



エアブラシの一例

(3)「50歳代ですが、20歳代の方々と交流があるので、いま流行の韓国風メイクを習って、若い人達に近づきたいと思いますが、どうすればいいのでしょうか？」

韓国メイクへの一番の近道は、先程ご紹介したカバーカのあるファンデーションのパールと乳液を使ってベースを作り、上から粉をはたかないというものです。

また、アイラインも、韓国メイクの場合は、上に引かないで、中に描きます。インラインと言います。中の方に何層もモスグリーンを付けて、その上に茶色を重ね、さらに目尻にだけピンクを入れるような、細かく少しずつ入れていくというアイメイクが多いです。

韓国メイクでは、またグラデーションリップというのがありますが、何かものを食べた後の口みたいになって、私は好きではないのでやりません。でも肌づくりはまねる価値があると思います。



(4)「自分の頭に白髪を見ると、気持ちが下がります。何かいい対策はないのでしょうか？」

白髪は気になりますよね。私もいま60%くらいが白髪なので、3週間に1回ヘアカラーに行きます。美容室で信頼できる方を見つけて、きれいにカットしてもらって、それで自分が安心して過ごせるような状態にしてもらうというのが、まず必要なことです。

白髪は、2~3週間、早い人だと10日くらいで、少しずつ出始めます。そういうとき、マスカラ状のもので隠したりする人がいますが、あれはツヤが出過ぎて、いかにも隠したという感じになってしまいます。



繊維状の黒いものをポンポンと振りかける感じで付けるものがあります。これだとマットで、付けても全然目立ちません。芸能人の方は随分使っています。

フィギュアスケートの選手は、シニヨンといって、ジェルを使って髪をピタッと引っ詰めた状態にするので、生え際の毛がなくなってしまいます。それで、生え際をポンポンと埋めるようにして使っています。

広範囲に白髪が伸びてきた人は、油性のタイプの整髪料（例えばニューフラワードライセットスプレー（右））をブラシで付けて、大体白髪が隠れたら、上からこの繊維状のマットなものを使うと、きれいにぼけてくれて自然に見えます。一度お試しいただきたいと思います。



(5)「心のアンチエイジングの秘訣を教えてください。」

私も、個人的なことを言えば、いろいろありました。22年前にパートナーを不慮の事故で亡くして、それから2~3年は人とも会えないような状態でした。結局、友達や家族がそばにいてくれて助かったようなところがあって、いまこうやって仕事ができる状態です。

花を見たり、愛犬の寝顔を見たり、ふとしたことで、自分はいま幸せだと思えます。今日のこのような機会をいただけたことも、大変ありがたく思っています。

あとは趣味も大事だと思います。私は料理が好きで、何かを作っているときに幸せだと感じることもあります。

豪邸に住みたいとか、偉くなりたいとかいうのがなくて、それはそれでダメなのかもしれませんが、日々の生活に満足し、それを楽しむというのが、一番のアンチエイジングなのかなと最近思います。

【会場からの質問に答えて】

(6)「紹介して下さった白髪を隠すものの商品名を教えてください。」

ルアンという会社のスーパーミリオンヘアー（SMH）ヘアファンデーションです。3色展開してまして、ライトブラウン、ダークブラウン、ブラックがあります。ライトブラウンは、赤みが強過ぎて目立ちますので、ダークブラウンがお勧めです。

普通の粉ではなくて繊維状のパウダーなので、繊維と繊維が絡み合っただけで自然な仕上がりになります。マスカラと同じ構造です。塗るものだとベタっとなって塗り絵みたいになってしまいますが、繊維質なのでフワッと自然にカバーしてくれる感じです。

一般的には、ヘアセットが完了してから付けるのですが、アップスタイルやハーフアップスタイルのときは、ヘアスタイリング剤を付ける前に付けた方がきれいに決まります。その後、ヘアスプレーを使います。スプレー後に使うと、髪にきれいに入り込まないで、まだらになってしまったりすることがあるので、スプレー前に使います。

普通のシャンプーで落ちます。油性の染毛剤だと、クレンジングオイルなどを使わないと落ちなかったりするのですが、これは、髪に優しいのにしっかりカバーしてくれて、自然にフワッとなって、簡単に流せるので、使った後の圧迫感がないのです。



●会場参加者をモデルに実演

この後、会場参加者2名をモデルにして、ヘアメイクの実演を行いました。

(ヘアメイクのコツとしてヒントになりそうな説明について、要約して記載します。)

【最初の会場モデルの方(30歳代)】

華やかだけど、きつくないような感じに作っていただきたいということなので……。

顔まわりの髪を巻いていきます。白髪を抑制する効果のあるヘマチンという成分がたっぷり入ったセットローションをあらかじめベースに付けておきます。油分を含まないドライ系のセットローションがお勧めです。髪を根元から立ち上げることができるようになります。水分の多いローションは、セットしても崩れやすいので、年配の方やふんわり感の欲しい人は、ドライ系の方が望ましいです。

次に、豚毛のブラシで整えます。上から下に向かって、頭皮から髪の毛を起こすようにしてブラッシングします。これだけでツヤが出てきます。

まずは、眉山あたりの高さからヘアアイロンを当てて、毛先を巻かないように、斜めにスライドしていきます。次に、少し目の粗いフォームで、耳上あたりから髪を下にほぐしていきます。時間があれば、ブローをした方がきれいになります。ヘアアイロンをかけるときに、髪を多目に取られる方がいらっしゃいますが、髪に均等に熱が入らないときれいにカールが出ないので、1回に取る毛束は少な目の方がよろしいです。



毛先はちょっと軽く1カールします。1回転巻くだけで良いです。最近ではヘアアイロンを低温で使うのが推奨されているようですが、そうするとカールの持ちが悪くなってしまいます。できれば180度くらいの高温でやった方が良いです。巻くのは3秒くらいの短さで良いです。最後に少しオイルを付けます。髪が健康そうな方は、重めのオイルを使って、下から揉み込む感じで付けます。

ちょっと韓国っぽく、立体感が出た感じになりました。

【2番目の会場モデルの方(60歳代)】

髪がペチャンコになってしまうので、メリハリを付けたいというご希望なので……。

ペチャンコになるというお悩みをお持ちの方は非常に多いです。根元からしっかり立ち上げるために、先程ご紹介したドライ系のセットローションを付けます。今日は時間の都合上、前髪だけやります。前髪を作ると若く見えると言う方がいらっしゃいますが、根元にうねりが出ると、逆に疲れているように見えてしまいます。無理に前髪を作るよりも、立上げて華やかに見せる方が良いと思います。

ペチャンコになりやすい方は、髪を後ろから比較的たくさん持ってきて、前髪の量を増やすのが良いです。そして、それをマジックカーラーで巻きます。あまり派手なカールを付けたくないので、大き目のカーラーを使います。ドライヤーでカーラーの穴の中に暖かい空気が入るように、温風を入れます。その後、キューティクルを引き締めるために、冷たい空気を上からかけます。この冷やしているときにカールが付きます。暖かいうちはカールが付いていないので、冷やしてからカーラーを取るようしてください。時間的には、メイクが始まる前にカーラーを巻いて、メイクが終わるころに外すと、きれいにカールが付いているということになります。

立ち上がった前髪に、先程ご紹介したスーパーミリオンヘアーをポンポンと付けると、白髪を目立たなくしながら、さらにフワツとした感じに仕上がります。

●さとう珠緒さんをモデルにしたの実演(会話しながら)(以下敬称略)

さとう：今日はお招きいただきありがとうございます。よろしくお願いします。それでは早速……。

結城：メイクに取り掛かりましょう。既に下地とファンデーションはできているという状態から始めます。

ところで、珠緒さんとは長いお付き合いですね。以前には、『バス旅』(テレ東『ローカル路線バス乗り継ぎ旅』)で1週間ぐらいのロケがあって、大変でした。

さとう：メイクの時間も30分取れるか取れないくらいで。

結城：時間との勝負でしたね。

さとう：結城さんはいろいろなタレントさんのヘアメイクをされると思うのですが、私をやる時はどういところに気を付けていますか？

結城：珠緒さんの場合は、他の人よりもかなり顔が小さくて、しかも顔のパーツが中心にグッと寄っています。なので、普通のメイクをすると、すごく濃く見えてしまったり、きつい印象になってしまいます。だから、パーツを離すような色の使い方をして、色味で見せるより、ツヤとかニュアンスが出るようなメイクをしています。



さとう：なるほど。比較的ナチュラルですよ。

結城：そうです。やり過ぎないようにしています。

それではまず、先程ご説明しましたように、乳液にカバー力のあるファンデーションのパールを混ぜて、これをまず鼻のところに付けます。圧をかけるとベタッと付いてしまいますので、赤ちゃんの肌に触るような、やさしい感じで付けていきます。

これを眉間から鼻先まで一気に入れると、珠緒さんの場合は、整形したように鼻が高く見え過ぎてしまうので、眉間の下あたりと鼻の先に付けていきます。

続いて目の下にも付けます。圧をかけないように、トントントンと置いていきます。あご先にも付けて、こうして顔を全体的に明るくしていきます。

さとう：外のロケなのか、室内なのか、写真のスチールか、映像かでも、メイクは違ってきますよね。

結城：はい、それぞれの化粧品の使い方が変わります。

さとう：衣装やセットによっても違ってきますか？

結城：例えば、特番のような番組だと、スタジオの照明が目を開けていられないくらい明る過ぎて、そういうときは、チークを濃い目にするとか、隠しアイラインをしっかり入れるとか、状況に応じてメイクを変えていきます。

今日のアイメイクでは、ピンクのかなり薄い色で、ちょっとラメの入っているようなものを目の上に薄く入れていきます。毛先の丸い筆の先でアイシャドーを取って、円を描くようにして、粉の粒子を転がすような感じで入れると、フワッと色が付きます。付いているか付いていないか分からないくらいの薄目の感じで付けていきます。



さとう：思ったより大きいブラシですね。チップなどを使う人もいらっしゃるのか？

結城：色を出したいときはチップの方がいいかもしれませんが、フワッと付けるにはブラシの方が向いています。最近の韓国メイクなどでは、指で塗ったりすることもあります。

さて、この後アイラインですが、珠緒さんの場合は二重の幅が広くて、リキッドラインを使うとわざわざらしくなるので、黒のペンシルで瞼の内側にインラインを細かく入れていきます。触られ

ている方は、くすぐったいような感じだと思います。

さとう：粘膜のギリギリ外くらいのところですね。

結城：そうですね。ギリギリのところに入れると、きりっとする感じになります。ブラウンよりも黒の方が効果が出ます。

次に、ホワイトのペンシルを使って、目の下の粘膜ギリギリに、端から端までしっかりと白いうインを入れていきます。これで、白目がきれいに見えるので、目が縦に大きく見えるような感じが出ます。午後ちょっと疲れたようなときにも効果があります。

さとう：このペンシルは便利ですよ。

結城：いろいろな場所に使えます。

その後に、先程目の上に入れたのと同じ色のアイシャドーを、細い筆で涙袋に入れていきます。チップを使って大丈夫です。プシテ太くなったりすると目立ち過ぎるので、細く入れていきます。

さとう：目元のメイクは、右はやりやすいんですが、左はやりにくいということがあるようですが、どうすればいいんでしょうか？練習あるのみですか？

結城：練習と感覚ですかね。感覚の方が重要かもしれない。

次に、まぶたの下の目尻の方にだけ、ピンクのペンシルでアイラインを引きます。これは引くのではなくて、点で置いていくような感じです。

さとう：これはどういう効果があるんですか？

結城：珠緒さんは、白とピンクが似合うような

「可愛いさぎ」というイメージがあるんですね。それで、このアイラインで可愛らしさを出します。

さとう：これで、血色よく、健康的に見せるという感じですか？

結城：そうですね。最後に必ず綿棒でぼかします。

さとう：この一手間が大事なんですね。

結城：そうです。

次に眉を描いていきますが、最近私は珠緒さんの眉をピンクっぽい色のアイブローで描いています。聞いた人はびっくりされますが、シルスチュアートのニュアンスブローパレットを使っています。

さとう：相当ピンクですね。

結城：でも付けると意外に可愛いので、皆さんもちょっと遊ぶ気分で使ってもいいと思います。すごくピンク色に出るわけではなく、ピンクのニュアンスでふんわりして見えます。

さとう：眉が一番難しいですが、何かポイントがありますか？

結城：まず眉の下から描いていくのがいいと思います。ペンシルを使ってラインを決めて、そこからパウダーで埋めていくという手順ですね。

次に、眉マスカラを使います。これもかなり濃いピンクです。それを、眉毛が立つように付けていきます。最近このやり方が流行りです。目尻も描きます。濃い色ですが、意外になじむんです。

さとう：さあっと触れるような感じで描いていますね。

結城：そうです。圧をかけずに、柔らかいイメージで作っていきます。

次に、チークに移ります。マニキュアの瓶のようなものに入っているリキッドタイプのチーク（アディクションチークポリッシュ）を使います。パウダータイプのものよりもお直しがしやすいで



す。リキッドタイプでも、昔のように汚くよれたりすることはありません。昔は目尻の上の方に向かって引くように付けるとというのが流行っていましたが、最近はポンポンと置くように付けていきます。こうすると、黒目の下が可愛らしくなります。色はコーラル系のものです。オレンジピンクのような色です。自分の体温でなじませていくような感じです。あご先にも少し付けて、その後、スポンジで全体になじませていきます。そして今度は、もう少しピンクの濃い、しっかり付くタイプのパウダーチーク（DECORTE パウダーブラッシュ807）を目の上の中心だけ筆でちょっと入れて、指先でポンポンとなじませて行きます。こうすると、目の上にツヤ感が出て、白目がきれいに映って、目が生き生きして見えるようになります。

そして、もしもクマなどで目の下が気になるようであれば、チークを頬のかなり上の方に筆で入れます。濃い目のピンクを使ってちょっと赤みを出して、目の錯覚で隠していきます。コンシーラーなどを使いすぎると、それがシワに入ってしまうので、かえって汚く見えたりしますので、頬の高い位置に、筆を立てるような感じで入れていくのが良いです。

さとう：いつも世間話をしながらメイクするから、こういうことはちっとも知らなかったです。ちゃんと聞きながらメイクをするのは初めてかもしれません。とても勉強になりますね。

結城：いつも二人で、健康情報とか、美容情報とか話しながらやっていますからね。

さとう：愛犬の話もしますね。

タレントさんのメイクをするときは、リラックスさせるのも、メイクさんの仕事の一部なんでしょうね。世間話をして緊張をほぐすということをやってくださっているんですね。



結城：いや、わりと素でやっております。

珠緒さんは、普段からこういう綿菓子みたいなフワツとした感じの人ですから、楽屋全体がピンク色になるというか、柔らかい雰囲気になりますね。

次に、ハイライトを顔全体に軽く入れて行きます。本当に薄く、少しだけ、ブラシでフワリ入れる感じです。皆さん、忘れがちですが、首にも入れて行きます。スポンジでやるとベタッリ付いてしまいますので、ブラシでふんわりやるのがお勧めです。

さとう：パフは使わないんですか？

結城：外のロケなどで、汗をしっかり押さえたいというときは、パフで入れて行きますが、そうするとツヤがなくなるので、ブラシの方がお勧めです。

次にリップですが、まず先程使ったホワイトペンシルで、上唇と下唇の真ん中のそれぞれ上下に少し色を入れていきます。これによって、唇のふっくら感が出ます。

今日はお洋服が白っぽいので、唇には青み系の色を入れていきます。リップブラシでやるとベタッと付いてしまいますが、珠緒さんの場合はフワツとした感じがお似合いなので、チップ系のもの付けていきます。使い捨てのチップですが、綿棒だと固くて均一に付かないので、チップの方が使いやすいです。韓国風のグラデーションリップを作るときも、これの方が描きやすいです。

さとう：どこで手に入りますか？

結城：Amazonで扱っています。

先程と同じように、点で置いていきます。それから上唇と下唇を合わせてください。

さとう：普通に口紅を引いたら駄目なんですよ。

結城：ふんわりした感じを出すには、点置きの方がいいです。ベタッと付けない方が珠緒さんには似合っていると思います。

その上から、真ん中だけ、ちょっと赤っぽい、シロップみたいなものを付けていきます。トリートメントグロスのようなもので、上から保湿もしてくれますし、ツヤも与えてくれます。

さとう：真ん中だけに塗るんですか？

結城：これも珠緒さんの顔に合わせて、そうしています。全体に付けると、ちょっとケバくなるような感じがするので、真ん中に付けて、上下で合わせてもらって、ちょうど良くなじむような感じに付けます。

さとう：自分でやると付け過ぎてしまうような気がします。お相手の方の顔によって、グロスなども変えているんですね。

結城：そうです。その後必ず口角に細いブラシか綿棒で、ベージュのコンシーラーを付けます。これで口角が上がって見えます。

それから、綿棒で先程ベースで付けておいたファンデーションとコンシーラーをなじませるようにして撫でていきます。口角にコンシーラーを付けることによって、きりっと上がって見えますので、すごくお勧めです。

次にまた、秘密の技ですが、最初に使ったカバーカのあるファンデーションのパールを使います。目尻のアイラインを引いた下のあたりから、少し斜め上に向かってブラシで引くように、ほんの少し入れて、指先でなじませます。ニュアンスを出すイメージです。眉ブラシや綿棒でもできます。夕方になると目尻が下がるような感じのときに、目が上がったように見せるという効果があります。さらに、このホワイトを目頭の横、鼻根のあたりに置きます。点で置いて、体温でなじませるといった感じです。

さとう：体温でなじませるといのが多いですね。

結城：そうです。その方がふんわりした感じが出ます。目尻やあごの下にも置いていきます。

そして最後に、メイクをキープするためのローションをかけます。保湿効果も高いので、お直しするたびに使います。

はい、これでお顔の方はできました。こうして見ると、眉にピンクを使いましたが、全然違和感がないですね。表情が明るく見えるような感じがします。いまは眉マスカラも紫とかいろいろな色のものがありますので、アイブローのマスカラとペンシルの色を合わせて、いろいろと楽しまれるのが良いと思います。

それでは、続いてヘアをやっていきます。

今の状態は、先程ご紹介したローションタイプのベースを既に付けてブローしたところですよ。それに、26ミリのこてを当てて、外に向けてカールしていきます。

さとう：ヘアスタイルを決めるポイントは何でしょうか？

結城：お洋服ですね。衣装に髪形を合わせるようにします。それから、番組で髪形を変えますね。きち

んとした堅い番組であれば、内巻きにブローしたりとか。温泉ロケのようなときは、着脱が多いですから、最初からアップにするとか。1日に5~6カ所の温泉に入ったりしたこともありましたよね。スタッフさん達を待たせないように、時間との勝負です。

さとう：登山のロケに行ったこともありでしたね。

結構きつい山登りで、メイクさん達は道具もあるから、一緒に登っていただいて申し訳ないという気持ちでした。体力も勝負ですよ。疲れているのにメイクしていただいて、本当に感謝しています。

結城：いえいえ、そんなことはありません。

かづき先生や珠緒さんは、メイク中に結構面白いことを言うので、笑っているうちにやけどしそうになったりします。楽しくやらせていただいています。



そうこうしているうちに、だんだん普通の珠緒さんらしくなってきましたね。髪の中程をちょっと伸ばしてストレートにしながら、毛先だけ遊ばせるように外巻きにしています。先の方にくびれを付けて、押さえるような感じでアイロンを当てて、最後にポンと放すような感じで巻いています。

それから、最初の会場モデルの方にも申し上げたのですが、顔まわりの空気感が大事です。珠緒さんの場合は、先程の方よりも、もう少し上の方から巻いています。顔まわりにあまりカールを入れ過ぎると、見栄えが悪くなるので、1カ所だけ空気を入れ込むような感じに作っていきます。次に、前髪を内巻きにしていきます。

さとう：前髪のポイントはなんででしょうか？

結城：皆さん、根元がうねりやすくなりますので、根元から毛先まで、あんまり圧をかけて巻き込むようにはしないで、まっすぐに伸ばすような感じで先だけ巻きます。

大体ラインができましたら、先程使ったちょっと濃いめのオイルと、ヘアクリームを混ぜます。ツヤを出しつつ、束感を出したいので、2つを混ぜて使います。後ろの方から付けていきます。

さとう：いい香りで癒されます。

結城：珠緒さんは耳に掛けるようなスタイルがお好きなので。

まだ髪に熱が入っていて暖かい状態なので、手で梳かすといくらかでも形が付けられますので、ほぐす感じでデザインを作っていきます。それから、うねりが気になるという方は、マスカラ状の軽めのセット剤を髪の根元から内側に入れると良いです。透明のセット剤です。その後にもた粗めのブラシで前髪をブラッシングします。束感を付ける感じです。

最後に、キープモイストローションを付けて終わりです。

普通の珠緒さんぽくなりましたね。

さとう：ありがとうございます。



●かづきれいこ・結城小百合先生・さとう珠緒さんのディスカッション（抄録）

かづき：皆様、本日はご参加いただき、ありがとうございます。

誰でもご存じのタレントさんのお顔を目の前で作っていただいて、皆様、大変勉強になったと思います。結城先生、さとう珠緒さん、本日は本当にありがとうございます。

年を重ねるとお化粧品は本当に難しく、昨日まで引けたアイラインが今日は下がってしまうなんてことがあります。目が下がったり、シミやシワができたり、本当にいろいろな悩みが増えてくると思います。でも、どんなに老けても笑顔が変わらない方がいらっしゃいます。普通の顔は年齢相応でも、笑顔になった途端、昔のままの印象なんですね。それを維持できるというのは、その人のそれまでの生活や環境も関係しているのだと思います。

今日は、さとう珠緒さんにおいていただきました。珠緒さんは、本当にうさぎみたいに可愛いですよね。優しく、すごく気さくな方です。

結城：今日は、かづきのファンデーションを使いました。

さとう：軽くて、とてもいいんです。

かづき：ツヤ感があって、本当にきれいですね。

結城：オレンジのコンシーラーも使い勝手がいいです。メイクだけでなく、例えば、フィギュアスケートの選手が怪我をしたようなときでも、ちょっと付けると傷も隠せます。

かづき：オレンジのコンシーラーは、私が25年前に作りました。傷や火傷跡など、顔にトラブルを抱えている方に肌色を使っても、隠すことはできないんです。それでオレンジの化粧品を開発しました。最近になって、いろいろな雑誌に取り上げられています。



最近、お化粧って何だろうと考えます。私は自分が老けていくのを楽しんでいます。若い頃と顔が違いますから、また新しい化粧の方法を編み出せるわけです。自分の顔で練習して、いろいろ試していると、同じようなお悩みを抱えた患者さんに出会ったりします。自分の悩みに対処することが、ある意味で準備作業になっているんです。20年以上前に、溝に落ちて足を16針縫ったことがありました。その傷跡も、それを隠すための練習に使ったんです。そういう意味では、年を重ねることも、怪我をすることも、むしろ感謝すべきことなのだと思います。

さとう：すごいポジティブ思考ですね。

かづき：怪我をしたりなどのマイナスのことも、必ずプラスの側面があると思っています。

さとう：確かにそうですね。すごく辛いことがあっても、後になってあれがプラスになったと思うことはありますね。特に芸能界では、いろいろ浮き沈みがありますから。

ところで、私は昔からかづき先生のファンで、本とかDVDを買って、ひそかに練習したりしていました。

かづき：先日びっくりしたのは、『ぽかぽか』（フジテレビ）に出ていらしたときに、「若々しい秘訣はなんですか」と聞かれて、「これです」と言って、かづきテープを出してくれたんですね。ありがとうございます。

さとう：かづきテープは本当にすごいですよね。

結城：私も必ずメイクバッグに入れてあります。

さとう：鏡の前に置いています。

年を取ると、目の大きさや、右目と左目の左右差が変わったりします。これにテープが有効なんです。

かづき：テープはもともとリストカットや火傷の傷痕を隠すために開発したものです。リストカットや火傷の痕は、凹凸があってメイクがとても難しいのです。

ところで、今度4月にまた形成外科学会で発表します。もう20年以上発表を続けていますが、会員は皆、医師の方々です。

メイクアップアーティストは、日本ではやっぱり下に見られがちです。テレビや映画でも、ヘアメイクはとても大事な役割を果たしています。役者さんの顔を作って、テンションを上げて、役作りを盛り上げています。

さとう：それでも、衣装やメイクは、テロップでも最後の方に出てきますね。

かづき：海外ではもっと上の方に出てきます。だから、私は、化粧の地位を上げることを自分の使命にしているんです。メイクによって、本人の意識が上がることは誰もが経験したことがあると思います。眉毛1本描くだけで、テンションが上がることもあります。

さとう：そうですね。確かに元気になることがあります。

かづき：私が学会で発表するのは、化粧の効果を証明して、化粧を学問にし、その地位を上げるのが目的です。結城先生にも是非学会に出ていただいて、発表してもらいたいです。

ところで、結城先生が手掛けた珠緒さんの顔を見ていると、幸せな気持ちになりますね。

結城：観音様みたいな。

かづき：珠緒さんみたいに可愛い人がニコニコしているのは、本当に人を幸せにします。

さとう：うれしいです。ありがとうございます。

かづき：美人がツンとしていたら、近寄りがたくなってしまいます。美人ほどニコニコしていて欲しいと思います。笑顔はみんなを幸せにするからです。

珠緒さんは、美容で心掛けていることは何かありますか？

さとう：そうですね。例えば、長い収録をやっているとき、夕方になるとだんだん顔が落ちてくるんです。そんなときに、テープと栄養ドリンクですね。それで外観が復活すると、心の疲れも取れるんです。

結城：テープは本当に大事なアイテムです。女性の場合、生理周期でむくんだりしますので、そういうときにテープの補助が有効です。

かづき：顔面の血流に沿ってマッサージすることとテープを貼るだけで、十分アンチエイジングになると思っています。

美容整形が身近になっていますが、私は絶対に反対ではないのですが、一度やるとずっとやり続ける方が増えているのが心配です。

結城：依存症になって、心が壊れていったりするんですよ。

かづき：若年齢化もしています。

さとう：十代から始める人もいますよね。

かづき：先日、十代の子に、どうしたら老けないですか、どうしたら若返りますかと聞かれたんです。何歳を基準にしているのか、わからなくなりました。

結城：小学生の子どもに二重瞼の手術を受けさせるために、親御さんが連れてくるということもあるようです。

かづき：どうしてご両親が「誰が何と言ったって、お前が一番可愛い」と言ってあげないんだろうかと思います。

さとう：確かに、何もしなくても可愛いですよ。それを生かさないのはもったいない。

かづき：その子自身の可愛さを親が否定するというのがわからない。

よくテレビ番組で、芸人さんが「ブス」と言ったりしますが、私にはその「ブス」の意味がわかりません。目があって、鼻があって、口があって、きれいな肌があって、それでどうして「ブス」なんだろうかと思いませんか。

さとう：確かにそうですね。

かづき：鼻は息ができればいい。目は見えればいい。歯があってご飯をおいしく食べられればいい。だんだん年をとってきて、形の問題などではなく、それだけでありがたいと思います。

結城：そうですね。

かづき：私は3カ月前に股関節の手術をしました。

さとう・結城：大変でしたね。

かづき：1年以上前から痛み出して歩きづらくなり、そうになると、頭も働かないです。それが手術して、リハビリして、もう朝歩けるというだけで感謝です。普通に生きていることが本当にありがたく思えます。結城先生や珠緒さんと知り合えたことも感謝です。

さとう・結城：こちらこそ。

結城：昔かづき先生が三越のイベントに出ていらした頃、母と見に行ったことを思い出します。まさか先生のヘアを担当させていただくことになるとは思いませんでした。

さとう：かづき先生の美の秘訣は、感謝の心かもしれないですね。

かづき：あざや火傷痕など、いろいろな外観の問題を抱えた方々から、メイクを通して「ありがとう」

とか「嬉しい」という言葉を聞きますが、そういうとき、私は家に帰って亡くなった両親や祖父母に「ありがとうございます」と言って感謝します。こんなに人に喜んでもらえることをさせてもらって、本当にありがたいと思うからです。人に喜んでもらったとき、私の体の中の血や細胞も喜ぶんです。そういう経験がありませんか？

結城：あります。喜んで夜眠れなくなることもあります。

かづき：わくわくするんですね。

結城：何か湧き上がるような気持ちになりますね。

かづき：逆に、芸能人の方でやりにくいなっていう人はいますか？

結城：いますね。もう最初から全部否定されて、何をしても「いや、いや」と言って、「触らないで」とまで言われます。こちらも最初から最後まで「失礼しました」の連続でした。でもそういう人は、他でもいろいろトラブルがあるようで、週刊誌に書かれていたり、結局あまり見られなくなってしまいます。

かづき：メイクボランティアで高齢者施設に行くんですが、最初に「お化粧品しましょう」と誘っても「いらん」と言う人がいます。そういう人は、顔が土気色で、口がへ字で、あまり笑わないんです。逆に「やってくれるの、嬉しいわ」という人は、好奇心があって、仲間も多くて、楽しそうな顔をしています。笑顔なんですね。

結城：そう、笑顔が一番の宝物ですよ。

かづき：珠緒さんにも苦手な人っていますか？

さとう：いますね。例えば、舞台をやらせていただいたとき、専門の舞台女優さんで、職人さんのような方がいらっしゃいました。いろいろな点でいつも注意されていました。でも勉強になったので、ありがたいとも、良かったとも思っています。

かづき：そういえば、私自身もそういうことがありましたね。私は話しながら笑いながら楽しくメイクするんですが、ある有名なメイクの先生は静かなのを好まれるようで、私がメイクしていたら、叱られてしまいました。

結城：そういう人、いますよね。

かづき：ところで、私の知り合いの女の子で、23歳で整形マニアという子がいるんです。

さとう：23ですか。

かづき：最近も、顎が張っているからというので、ボトックスを打ったというのです。それも歯医者で。

結城：歯医者でやるんですか？

かづき：美容外科だと10万円するのに、歯医者だと3万円なんだそうです。

さとう：食いしばりの防止とかいう名目でやるんでしょうか？



かづき：シミやくすみを取るのに、炭酸ガスレーザーを使うのがありますが、最近はそれをCO2トリートメントというんだそうです。名前を変えると、ますます身近になる気がしませんか。

結城：名前を変えることでハードルを低くしているんですね。

かづき：昔は美容整形は敷居が高いものだったと思いますが、今の若い子は、ちょっとエステに行くような感じでやっているんですね。

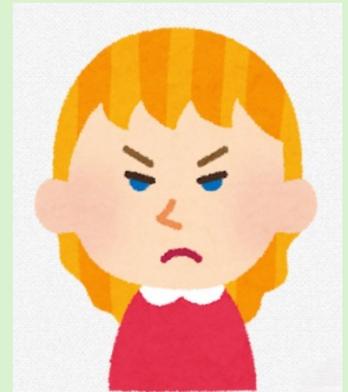
結城：髪をカットしに行くような程度に考えているようなところがありますよね。

かづき：芸能人の方も結構やられているんでしょうか？

さとう：やっている人もいますよね。ある日突然変わっちゃったなんて方もいらっしゃいますし、整形が好きな方もいらっしゃいます。

かづき：好きになると、やめられずに、やり続けちゃうという人もいますからね。

結城：依存症みたいになってしまうんでしょうね。



かづき：美の基準を変えたらどうかなと思います。珠緒さんのように顔が小さくて可愛らしい方もいらっしゃいますが、みんながみんな、そうである必要はないんですよ。顔が小さくても、広くても、三角でも、台形でもいいんです。年齢によっても変化します。それでもいいんですよ。それぞれの個性なんだから。

結城：そうですね。

かづき：芸能界の方は、年齢とともに顔の印象が変化していくと、役を変えていくんですか、それともいつまでも美を保ち続けようとするんでしょうか？

さとう：どちらのパターンの方もいらっしゃいます。

かづき：しかし、どんなに美を保ち続けようとしても、例えば60歳を過ぎるようになったら、難しいんじゃないでしょうか？

さとう：難しいですね。

かづき：そうすると、違う役柄でお仕事をする方が潔いような気がします。

結城：その方が格好いいように思います。

かづき：それでも、美を保ち続けようとしている方もいらっしゃいますね。

さとう：変化が受け入れられないんでしょうね。

かづき：私達のような一般人でもなかなか老化が受け入れられなかったりしますから、芸能人の方はもっと難しいのかもしれないですね。おばあさんの役をオファーされたときに、「なんで私がおばあさんの役を演じないといけないの」とか思うんでしょうか？

さとう：おばあさん役になり切れない人もいますね。そうすると、まだこの人は割り切れないんだなと感じます。

結城：そうだとすると、見ている方も、何か感情移入ができませんよね。

かづき：ということは、演技があまりうまくなくなる。

さとう：そうですね。

かづき：でも、何となくわかりますね。私も50歳を過ぎたときに11号がきつくなり、それを受け入れるのに1年かかりました。ワンサイズ小さいのを買うんですが、そうすると、かえって太って見えてしまうんです。女性にとっては、諦めることがなかなか難しいですが、女優さんなどはもっと深刻でしょうね。

さとう：そう思います。

かづき：ところで、私はこの3月に長崎に講演に行ったんです。空が本当にきれいでした。また、出島の夕焼けも本当にきれいでした。結城先生も珠緒さんも、日本中いろいろなところに行かれていますと思いますが、どこが一番印象に残っていますか？

さとう：いろいろ行きましたね。

結城：珠緒さんと一緒に行ったところでは、山口県の島で、宿が1軒、部屋が1部屋しかなくて、そこに2人で泊まったのが良かったですね。BSの旅番組だったと思います。

さとう：瀬戸内海がきれいでしたよね。

かづき：旅番組では、温泉に入ったり、ご飯を食べたりしますよね。番組の中で何か食べるというのは、どうなんでしょうね。味がわかりますか？



さとう：食レポって難しいですね。

かづき：「おいしい」としか言えないですね。でも、口に合わないものもありますよね。

さとう：口に合わなくても「おいしい」と言わなければならないけれど、でも表情に出ちゃうかも。

かづき：うまく表現する人がいますよね。

さとう：芸人さんとか上手ですね。

結城：間の取り方がうまいですね。

かづき：ところで、芸人さんと芸能人で、ヘアメイクは変えるんですか？

結城：変えますね。その人の好みがあるので。

かづき：結城先生は、ご自身の眉と珠緒さんの眉では、大分違いますね。ご自身のは太く描いています。

結城：珠緒さんの眉はふわっと描きます。自分のは、「これから仕事やるぞ」って気合を入れるために、太く描きます。

かづき：顔立ちによって描き方を変える？

結城：顔立ちと、それからその人の持っている雰囲気とかオーラによって変えます。

かづき：私は最近、眉を描くのにグリーンを使うことがあります。ちょっと茶色いグリーンと日本人の黒目がよく合うんです。グラデーションを少しずつ落としていくといいと思います。

さとう：それは知らなかったです。

結城：今度、珠緒さんにやってみましょう。

かづき：今度テレビで見るときは、珠緒さんの眉はグリーンかも。

【会場からの質問に答えて】

質問1：芸能界の方でも、一般の方でも、年を取れば取るほど、素敵になる方っていらっしゃると思うんですが、そういう方で、印象に残っている方がいたら、教えてください。

結城：樹木希林さんですね。お会いしたのは、多分亡くなる少し前だったと思うんですけど、髪ももう抜けてしまっていたんですが、本当に全身の毒気が抜けて、妖精みたいな感じで、鳥肌が立つほどきれいな方だと思いました。

さとう：私は、歌手で、森山良子さんが素晴らしいと思いました。誰にでも優しく、本当に素敵な方です。

かづき：森山良子さんも笑顔が変わらないですね。

さとう：そうですね。

かづき：昔と一緒に笑顔です。とても可愛らしいと思います。

【かづきれいこの近況報告】

最近、新宿区が小学3～4年生のために「小学生のためのお仕事ノート」を、新宿区・世田谷区・杉並区・練馬区が共同で中学2年生のために「中学生のためのお仕事ブック」というのを発行しました。区内の企業がどんな仕事をして、人々の暮らしにどのように役立っているかを紹介する冊子です。その中で、私の仕事を取り上げられました。道德の時間で使われるんだそうです。より美しくするメイクというのではなくて、外観上のいろいろな悩みを抱えた方々に対して、マイナスをゼロに戻すメイクとして紹介していただいています。大変うれしいです。

また、読売新聞関西版で、「傷跡を隠すメイク」として紹介されました。長い間、大阪公立大学の元村教授（臨床医科学）と患者さんの外観ケアを行っています。医療機関と美容の連携として紹介されています。

眼瞼痙攣の患者さんに対してテープを適用することで症状を緩和



する効果を、2014年から井上眼科で研究させてもらっています。テープを貼ることで、まぶしくて目を開けられないという患者さんに喜んでもらっていますが、今後は、そのメカニズムに関する調査をより一層深化させるための準備をしています。

テープに関して、最後にもうひとつ。花粉症の季節ですが、花粉症にもテープが有効と感じています。テープを1.5センチくらいの楕円形に切って、鼻の上の両側に引き上げて貼ってみてください。私は今年、点鼻薬がなくても、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどに悩まされることはありません。

【おわりに】

かづき：今日は皆様と一緒に本当にいい勉強をさせていただきました。珠緒さんのような有名なタレントさんに来ていただいて、自分のお顔のメイクの様子まで見せていただきました。本当にありがとうございます。

さとう：いいえ、とんでもないです。

かづき：今日はこれまで行った14回のセミナーの中で、一番皆様の関心に合った内容だったと思います。質問もたくさん出ました。ありがとうございました。

さとう：どうもありがとうございました。

結城：ありがとうございました。

＜セミナー参加者からの感想（抜粋）＞

～ 結城先生の講演・実演 ～

- 普段使っているものの効果的な使い方やテクニックを具体的に知ることができて、とても参考になりました。
- メイクやヘアアレンジを具体的に説明しながら実演していただいたので、とてもわかりやすかったです。
- トレンドを取り入れ、相手の雰囲気や服装に合わせ、いろいろなことを考えながらやっていらっしゃるのがよくわかり、さすがプロだと思いました。
- 珠緒さんの質問が、我々の疑問を解消するような確なものだったので、とてもわかりやすく、勉強になりました。
- 今後の人生のために参考になるテクニックや、人生を楽しむ考え方を学べて良かったです。

～ かづきれいこ・結城先生・さとう珠緒さんのディスカッション ～

- 楽しい雰囲気の中で、美の基準や、本当の美しさについての話題が取り上げられ、とても興味深かったです。
- かづき先生のお話は生きる力を与えてくれます。生きることが楽になり、年を重ねることが楽しみになりました。
- メイクのこと、芸能界のこと、幅広い話題がとても楽しかったです。かづき先生のお話の持っていく方、珠緒さんや結城先生へも気を配りながらのトークの絡みなど、素晴らしかったです。
- 年を取ることに向き合うことの大切さを再度実感しました。ありがとうございました。

＜お問い合わせ・申込先＞ 公益社団法人顔と心と体研究会 事務局

Tel : 03-3350-1035 (月～金 9:30～18:00 土日祝休み) Fax : 03-3350-0176

E-mail : info@kaokorokarada.org ホームページ : <https://www.kaokorokarada.org>

